

## 材木屋とエコ 環境 省エネ(第71回)

### 木材の恵みはすごい！

(株)コバリン 奥澤 康文

【小諸へ出張】8月1日(火)商用で、当社の小諸チップ工場及び近隣の農園2ヶ所を見学。長野新幹線の佐久平駅(軽井沢の次)下車、車で約5分。当日は雨が心配されたが、曇りのち晴れの好天。今迄に1～2回紹介した工場や農園ですが、改めて、木材や植物類の広い利用価値を認識した。

木材業界は、金融、医療、IT業界等の様な時代の最先端ではありませんが、長い人間の歴史と共に利用されてきた重みがある。この50～60年で随分と衰退している感は否めませんが、今後も厳しさは続くものの、確実に存続し続ける業種だと思う。我々は、普段の生活では森林の恵みを忘れがちですが、必要性、存在感を感じた。最近では、森林や林業が見直されてきているので期待している。



地元の森林組合等から、日々、大型トラックで原木丸太が年間を通じ安定して入荷。工場も60年以上の歴史があり、地産地消で地元深く根付いている。



製紙会社へ出荷する為の木材チップを生産。数十キロ圏内の山林から豊富な原木丸太を集荷。直径10～50cmの立派なカラマツ材等が集まります。



直径50cm以上の大径木の場合、別な機械で割ってから、チップー機内へ投入。広葉樹材より針葉樹材の方が多い。木材特有のいい香りに気分が安らぐ。



工場内の見事な胡桃が元気に成長中。秋には沢山実る健康食品。又、大きな栗の木も有。胡桃や栗の木も、将来はチップになり、自然の寿命を終える。





昼食は、『丁子庵』(小諸駅そば)。130年の伝統ある有名なそば屋。そば通の方はご存じかも？ 胡桃蕎麦を食べ、蕎麦好きな私には、最高の御馳走でした。



そば屋周辺の民家。狭い路地が入り組んでいる街並み。半世紀前の日本にタイムスリップした様な、懐かしく、温かい雰囲気、情緒を感じた瞬間でした。



昼食後、近隣の農園『夢ハーベスト』へ。木材チップの別な活用例。オーナーの小林氏が出迎えてくれました。無農薬の広い園内を親切、丁寧に案内して戴きました。



社長の奥様が軽食レストランを経営しており、当農園産のラベンダー薫るブルーベリーアイスを戴きました。白樺揺れる高原のベランダで、とても印象的。



ブルーベリー畑。これを利用した芳香剤の原液を生産。北海道の富良野もきれいですが、長野もいい。木材チップや樹皮類が有機肥料として大活躍。



山ぶどうが新鮮な感じ。秋には美味しくなりそう。普段はパソコンばかり見ている為、緑豊かな環境の中を散策し、目が安らぎ、視力が改善。



ここは伝統ある『松井農園』の遠景。無農薬主義を徹底。他社に先行して丸太の樹皮を使用。松井社長は自信を持って有効性を強調され、納得です。



広い農園内を見学。大きなブルーベリー。少し試食したが、甘くて美味しい。約20の樹種があり、大きなものは500円玉位になるという。





丸太の樹皮だけでなく、地面に落ちたものは全部有機肥料に還元。毎年、丹念に敷き込む。水はけ改良、成長促進、病気に強く、甘さも改善される。



無農薬の為、毎夏、農園内から沢山のカブトムシが発生。農園を訪れる子供さんや家族の方から喜ばれる。首都圏へも販売し、評判が良いとの事。

【高校東京同窓会の納涼懇親会】7月29日(土)午前11時から午後2時。於：ホテル・グランドパレス。今回は約2年振りに参加し、旧交を温めた。恥ずかしながら本格的な津軽三味線の生演奏を聞いたのは初めて。10数曲の熟演を鑑賞し、特有の音響、雰囲気ですべてに躍動感ある強烈な刺激を受けた。演奏の合間に、伝統芸能の歴史の説明を受け感動。今後もこうした機会を大切にしたい。



お招きした演奏者、「小湊 忍」氏。伝統芸能の継承者として活躍中。全国大会で特別賞受賞(2005年)



50～87才までの30数人(同級のS45年卒が6人)。私は若手の部類。毎年、参加者が減るのが残念。

2017年8月13日(日) 記